

編 集 後 記

本年度も、多くの論文を投稿くださりまして、編集委員一同感謝申し上げます。英文雑誌も増加し、かならずしも英語論文での投稿も難しくない時代に、あえて日本語の雑誌を選択することは考えられないと思われるかたもいらっしゃると思います。しかし、多くの英文雑誌の症例報告は、簡単な経過と症状、検査所見だけが記載されただけの、きわめて簡潔な内容のものが多く、それほど患者さんの診療に役立つ感じがしません。臨床神経学は短報ですら、詳細な患者さんの状態や検査所見がわかり、読んだ後で心に残るものが多いと思います。引き続き、多くの先生方からのご投稿をお願いいたします。もちろん、原著も総説も大歓迎です。

我が国でも、自然災害が多くなってきました。つい先日、私が訪問させていただいている ALS や MSA などのご家族から、台風のように予想できる災害のときには、あらかじめ入院ができる体制を構築してほしいとのご希望をいただきました。たしかに、災害が起こってからでは呼吸器が装着されている患者さんでは移動すらできないでしょうし、多くの方は、戸建ての自宅であれば、1階で生活さ

れることが多いので、垂直避難などは不可能でしょう。川が氾濫して自宅が水に浸かって呼吸器が使えなくなって、アンビューバッグで奥様をサポートしていたご家族がいたという話も聞いたこともあります。在宅医療が推進されるなかで、脳神経内科医がかかわる役割は、ますますひろくなっていると実感した次第です。

そういったこともふまえれば、臨床神経学へは、在宅診療やご開業をされている先生方からの投稿は少ないと思います。お忙しくて論文を書く時間はないのかもしれませんが、しかし、日常の診療のなかでちょっとしたことも、ぜひ論文にまとめていただき、ご投稿をくださればと思います。患者さんとのやりとりが、直接つたわるような多くの論文が集まることで、脳神経内科の発展につながると思っています。私自身は、令和元年もなにもできずに終わってしまった感じがありますが、皆様におかれましては、多くのプロGRESSがあったことと思います。2020年（令和2年）も臨床神経学へのご支援、ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(高尾昌樹)

〈 編 集 委 員 〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

「臨床神経学」 第59巻 第12号 2019年12月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日 本 神 經 学 会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>